

アメリカでの生活も3ヶ月が経ち、非常に充実した生活を送っています。6月5日に渡米し、夏学期の間 UIUC の語学学校である IEI に所属し、英語能力の改善に努めてきました。

今回の報告書では自分が履修した講義と講義内容についての説明を報告したいと思います。UIUC の講義は8月25日より始まりましたが、講義を受ける前に English Placement Test (EPT) を受けさせられました。EPT は TOFLE のスコアが低い留学生に対して課せられるテストであり、この結果により受講するクラスを指定されます。今学期に履修した講義は以下の通りです。

《 EPT と秋学期の履修科目について 》

今学期 Fall-semester に履修した科目について報告します。

- ESL 113 (English structure and paragraph development for undergraduate student)
- ESL 510 (English Pronunciation for Academic Purpose)
- KOL 201 (Korean Language class)
- EALC 250 (Intro to Japanese Culture)
- TAM 335 (Introductory Fluid Mechanics)

以下にそれぞれの講義の内容について説明します。

ESL113

この講義は英語を母国語としない留学生が履修する講義であり、EPT の結果より UIUC 側から『必須』として履修するように要求された科目です。単位数は3 hours credits。ここでの講義内容は主に文章の書き方を学んでいます。担当教員は大学院生であり、毎週講義内でテーマを出題し、その内容についてエッセイを書いてくるという形式を取っています。また時にはディスカッション形式でテーマの内容について話し合うときもありました。個人的な感想ですが、何故かこのクラスは、クラスメイトの半分が日本人で構成されており、ちょっとした違和感があります。

ESL510

この講義は英語を母国語としない留学生が履修する講義であり、EPT の結果より UIUC 側から『推奨』として履修するように要求された科目です。当初、この科目を履修しようとしたところ、『必須』としてこの講義を履修する人が非常に多く、担当講師側から履修しないでほしいとの旨を言われ、一度は履修申請を削除したが、履修期間最終日に、人数が減ったので履修できる旨を伝えられて、急遽履修することにしました。単位数は、ESL110 の場合は3 hours credits なのに対して、0 hour credit となっていました。これは、大学院生用の ESL510 の場合は credit に換算されないという理由があるそうです(詳しくは知りません)。しかし、Office of International Student Affairs (OISA) に相談に行ったところ、3 hours credits として認めてもらいました。

講義内容としては、発音に重点を置いた講義であり、内容は ESL110 とほぼ同じだと思います。しかし、小テストや宿題の内容が違うなど、所々の違いはあるようです。自分自身の発音録音、個別面談による個人的に悪い部分の発音を修正してくれるので、非常に役に立つ講義だと思います。

KOL201

この講義は韓国語を学ぶ講義です。『何故アメリカで韓国語を学ぶの?』というような声が聞こえてきそうだが、ここの Urbana-Champaign は非常に韓国人が多く（実際にキャンパス内を歩いていて、韓国人を見かけない日は無い）また Summer semester での IEI で学んだ期間に出来た友達の多くが韓国人であるため、韓国に興味を持ち、学んでみようという気持ちが起こったためです。また、日本語と文章構成が同じであり、英語で講義を受けたとしても、ある程度は内容が解り易いであろうという理由で履修しました。

講義内容はハングル語から文法まですべてを網羅しており、金沢工大での語学の講義と異なり毎日1時間の講義が設けられています。従って、講義進度は非常に早く、すでに1ヶ月でハングル語を読むことが出来るようになりました。おそらく今学期が終わるころには日常会話程度の内容なら理解できるであろうと思われます。クラスの雰囲気であるが10人という少ない人数での講義であり、しかも毎日講義があるため、アメリカ人の友達を作る上でも非常に有意義なクラスです。

EALC250

この講義は Intro to Japanese Culture の名前の通り日本文化について学ぶ講義です。この講義を履修した理由は、UIUC で正規の学生として学んでいる友達から、英語のリスニングとして、教授の発音が非常に解りやすいということと、日本について学ぶわけであるから解りやすいということとで履修しました。単位数は3 hours credits。

講義内容は、教授がパワーポイントで説明するのがメインですが、時にはビデオや日本の映画、アニメーションなどを見たりする時がありました。また、日本の文化についてのエッセイ等を書かされます。この講義も英語の勉強をするには非常に有意義だと感じられます。この講義は昼休みの時間帯（12:00~13:00）に行われていますが、300人ぐらいの学生が講義を受けています。かなりの人気がある講義の一つらしいです。

TAM335

この講義は金沢工大で言えば『流体力学』の講義に相当すると思われませんが、機械系の講義ではなく、どちらかというと物理学科の講義として扱われています。内容は初歩的なことから、流体解析の分野まで取り扱っています。この講義は Lecture 形式の3 hours credits と、Laboratory 形式の2 hours credits で成り立っており、講義の後に実験装置を用いて実際にその現象について説明し、どうしてそのような現象が起こるのかをディスカッションするという形式を取っています。金沢工大に置き換えれば、『流体力学』と『工学専門実験』を同時に行うというような感じです。

私は当初この講義を履修しましたが、時間的な余裕が無かったため（履修最大時間18 hours credits を over したため）と、Lab クラスでのディスカッションについて行けなかったために聴講生（audit）として、Lecture のみ履修することを担当教授にお願いしました。しかし、クラスの人数が多かったことと（200人以上）Lecture と Lab 両方のクラスを受けなければ、聴講生として認めないと言われたので、今回は削除しました。

その他

アメリカの講義の雰囲気に関してですが、昨年度の派遣留学生、竺耀さんの報告書に書かれていた、『200～300名が一度に受講しており、講義中に私語を交わすところを見たことが無い』という文章ですが、必ずしも事実では無いことが判明しました。EALC250のクラスでは、平然と遅刻してくる学生はもちろん、途中で退席する学生、遊んでいる学生も見受けられました。もちろん私語は当然のようにしていました。しかし、TAN335のクラスでは、真剣に講義を受けている学生が多いです。これは理系教科と文系教科の違いかもしれませんが、アメリカの学生の講義態度が日本よりも必ずしも良いとは限らないことが解りました。

3ヶ月間を振り返ってみて

IEIでの講義が楽しかったせいか、6月から8月まではあっという間に過ぎてしまった感じがあります。しかし、こちらに到着した当初、出国前に得た情報と違うことがかなり多くあり、戸惑ったりすることも多々ありました。

IEIの終了からUIUCの講義が始まるまでの間に色々アメリカ各地を回ってきました。テロの危険レベルが上がったので、危険だとよく言われますが、それほどたいした危機感も漂った雰囲気はありませんでした。

今学期の授業は自分の専門分野を履修せずに、主に英語能力の改善に努めようとして、上述のような授業を履修しました。この選択が良かったのか悪かったのかは現時点では解りませんが、良い選択であったと自分で認識できるように頑張っていこうと思います。